

同朋大会が開催されました



2月19日(水)宮城野区文化センターにて真宗大谷派仙台組(せんたいそ)の主催による「同朋大会」が開催されました。宮城県内20ヶ寺からご門徒が集まり、第一部は石田宏壽氏による法話、第二部はパネルディスカッションと参加者による座談会でした。普段交流することのない他寺院のご門徒さんと一緒にご法話をいただき、御同朋御同行という言葉をかみしました。

今月のことば

願ねがいよ
かなえ
いつの日か
そうなる
ように
生きてゆけ
B.Z. ねがいより

日本のロックユニット、B.Z. (ビーズ)の曲、『ねがい』の歌詞です。

いつの日か願いが叶いますように、と願うだけでなく、そうなるように生きていく。願いに對してどう生きるかが大切なのだと考えさせられます。

前住職法話「往生極楽の道」

『歎異抄』第二章は、教団が揺れ動く善鸞事件や念仏停止問題を抱えてきた人々の物語です。そこには、信心ということが不明瞭で、往生ということがはっきりしないという課題があります。命がけて遠方から来られた人々を前に親鸞聖人は「念仏以外に往生の道を見出す方法は私にはありません」と応えられます。

私たちが信心という時は、自分が信じる心という受けとめで、自分の思いを通すために宗教を利用しているようなところがあるのではないのでしょうか。でも本当は、自分の思い中心に生きている私の姿を知らしめてくるのが宗教なのです。

南無阿弥陀仏は阿弥陀仏から私たちへの呼びかけです。自分中心に生きている私に「我が国(浄土)に生まれんとおもえ」与えられた命を生ききって欲しい(自己を生き、共に生きよ)と。

ナムアミダブツと私の口から出ているけれども、阿弥陀仏が私の口を通して呼びかけてくださっているのです。

三月同朋会(第二土曜日)

三月八日

時 午後一時から三時半

内容 勤行・法話・茶話会

お茶代 500円

住職と前住職による法話の会です。

どなたでも参加できます。

ぼうもりのひとりごと

一週間ほど東京に滞在する機会がありました。時間を持て余し、散歩ばかりしていましたが、行く先々で神社や仏閣を見つけてはお参りさせていただきました。その土地に根付いている信仰に思いを馳せるとともに、いつの間にか自分の中に手を合わせるといふ日常が当たり前にあることを発見しました。